

# 平成22年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告

## (1) 事業の概要

### ア 芸術文化活動の企画、運営及び提供

財団では浜松市内の文化団体や企業と共催で行った事業も含め、多彩なジャンルの事業を開催しました。

コンサートでは「ウィーン交響楽団」や「パリ・ギャルドレピュブリケーヌ吹奏楽団」などを開催し、トップレベルの演奏を提供するとともに、「サンリオファミリークラシック」など子供たちがクラシックに親しむ演奏会を開催しました。

オペラでは「ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場『こうもり』」を、バレエ公演では日本を代表する「東京バレエ団『ジゼル』」を、ミュージカルでは「しまじろう みんなでたんけん！ みなみのしま」を、3年ぶりとなる演劇では「華々しき一族」を開催しました。

また、毎年恒例の松竹大歌舞伎公演では、尾上菊五郎らが『一條大蔵譚』などを熱演いたしました。

その他、市内合唱団体と協力して開催した「イ・マエストリ」や、企画段階から市内福祉団体と協力して開催した「谷真人ハートフルコンサート」など、当財団ならではの企画も好評を博しました。

### イ 芸術文化活動の支援及び交流の促進

市民文化団体と連携して「浜松市民文化フェスティバル」や「浜松市芸術祭はままつ演劇・人形劇フェスティバル」を開催するとともに、こうした財団の事業に賛同支援いただけるボランティアスタッフの募集・育成を行いました。

「コーラス万歳」では、浜松市内全域から公募した子ども230人、大人180人の計410人による大合唱団を結成し、音楽監督に服部克久氏を迎え、次の時代に伝えていきたい昭和の名曲の数々を歌いあげました。

吹奏楽作曲事業「バンド維新」では、千住明、林光、北爪道夫等の著名な作曲家による吹奏楽のための委嘱新作を市内中学・高校の吹奏楽部が「全曲世界初演」するとともに、作曲家自身を招いて公開レクチャーを行いました。こうした活動が全国で高く評価され、本年度は三重県文化会館の自主事業として採り上げていただきました。

## ウ 文化振興を担う人材の育成

「ジュニアオーケストラ浜松」及び「ジュニアクワイア浜松」の運営を通じて、将来の音楽文化を担う子供たちの育成を図りました。ジュニアオーケストラ浜松の子供たちは新潟で開催されたジュニアオーケストラフェスティバルへの参加、ジュニアクワイア浜松の子どもたちはワルシャワ市や札幌市で演奏を行い、その活動は各地で絶賛されました。アクトシティ音楽院事業では、世界で活躍する音楽家の養成を目指す「アカデミーコース（2事業）」から市民レベルの音楽文化の担い手を育てる「コミュニティコース（11事業）」まで幅広く人材の育成を行いました。

特に市内小・中学校合唱部に市内の優秀な合唱指導者を派遣した「合唱セミナー」や中学・高校生の吹奏楽部員を対象に吹奏楽の世界的作曲者ヴァンデルロースト氏を迎え、バンドクリニックを行うなど、各ジャンルで一層のレベルアップをはかるための講座を積極的に開催してまいりました。

## エ 芸術文化に関する調査研究及び情報提供

アクトシティ浜松友の会「ビバーチェクラブ」には、約6,000名が登録、主にアクトシティ浜松で開催される舞台公演年間約100公演について優先予約販売を実施しました。会員には隔月発行の情報誌や取扱公演チラシなどを毎月発送するなどの情報提供を実施し、公演の有力な購買層として浜松で開催される芸術文化事業を支える組織として認知されています。

今年度は財団の活動を統一イメージで広くPRしていくため、財団のシンボルマーク、ロゴタイプの公募を実施し、377点の応募をいただきました。決定したデザインは、財団活動のシンボルとして活用していきます。

また、財団ホームページ上で財団主催事業を中心に浜松で開催される芸術文化活動を紹介してきたほか、オンラインショップを開設し、主催事業チケット、関連書籍、CD、DVD等のほか、市内で活動する文化団体の公演チケットについてもインターネット経由での販売を新たに開始しました。

浜松市と協働で開設した浜松市芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」では、主に市内で開催される芸術文化活動の告知媒体として利用が進んでいます。また、市内で活動する文化団体や、浜松で活動を希望するアーティストの情報、市内文化施設の情報の紹介など、芸術文化に関する情報交流の拠点サイトとして活用されています。

## オ 地域社会の活性化に資する事業

5月の浜松まつりに合わせた「アクトでやらまいか！ 浜松まつり」、8月の「納涼まつり」では、アクトシティ連絡会の一員として企画の提案や運営に関わり、アクトシティでの賑わいを創出いたしました。地元企業を中心とした世界の縁日への出店参加や周辺地域の様々な郷土伝統芸能などの実施により、地域文化のアピールと共に、地域社会の活性化を図りました。

また、アクトシティ浜松管理課では、アクトシティの施設全体の有効活用による周辺地域の活性化を図るため、近隣の医療機関など各種団体をはじめ、関東エリアの学会事務局や企業などを訪問し、アクトシティ及び浜松市のPR活動、コンベンション誘致活動を実施いたしました。

当財団が実行委員会に参画した浜松市を舞台にした映画「書道・ガールズ 青い青い空」が10月より公開、約20,000人の観客を動員しました。

## カ 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力

第7回浜松国際ピアノコンクールの優勝者チョンソンジンによるリサイタルツアーを国内外にて行うとともに、名古屋フィルハーモニー交響楽団、PMFオーケストラ、NHK交響楽団、浜松交響楽団との共演を行いました。

また第8回コンクールに向け、新審査委員長に海老彰子氏を迎え、新たな組織体制の整備・実施要項の作成を進めました。

また、市制施行99周年記念式典、パイプオルガンミニコンサートなどの恒例となった芸術文化事業を開催し、芸術文化の振興に寄与したほか、音楽文化都市交流宣言に調印した札幌市との交流事業として「PMF チェンバーオーケストラ」の演奏会を行いました。

3月に開催を予定していた「第15回浜松吹奏楽大会」は東日本大震災の影響により中止となりました。

## キ 公の施設の管理運営及び附帯事業

### (ア) アクトシティ浜松

音楽、舞台芸術及び産業・コンベンション振興の拠点として活用していただくよう、財団法人観光コンベンションビューローなどの関係諸団体と連携し、広報・誘致活動を行いました。利用料金収入が当初予算よりも下回る結果となりました。要因として、リーマン・ショック以降の厳しい経済情勢が続いており、各催事の開催日数の減少や規模縮小、削減等により展示イベントホールをはじめとする稼働率の低下があげられるとともに、3月中旬以降は東日本大震災の影響で、主催事業の中止や予約取り消しがあり、損失が拡大しました。

設備管理面では、昨年度に引き続き省エネルギー対策を進め、光熱水費の削減ができました。

### (イ) 浜松市楽器博物館

平成22年度は開館15周年の節目を迎え、記念事業をはじめとした多種多様な活動を実施しました。

特別展では館蔵の世界最大規模を誇る19世紀イギリススタイルのバンジョーコレクションと個人コレクションを展示する「バンジョー大博覧会」を開催しました。展示構成において日本のバンジョー界のトッププレイヤーや研究者と共同企画をして楽器博物館の全国性を生かしたことが特徴で、レクチャーコンサートやワークショップなどの関連事業も含めた大規模な催しとなりました。企画展ではユーラシア大陸全域に分布する口琴の展示を日本口琴協会と共同企画で行い、ロシア連邦サハ共和国から口琴のトッププレイヤーを招いたレクチャーコンサートも開催し高評を得ました。

レクチャーコンサートは全12回、イヴニングサロンは全8回を企画・実施いたしました。開館15周年記念としてアクトシティ中ホールで開催した館蔵フォルテピアノと室内楽によるコンサートは質の高さで聴衆に感銘を与えました。イヴニングサロンでは市内の楽器メーカーや音楽家との共同企画によるコンサートも実施し、新しい分野を開拓しました。

15周年記念企画として他にアフリカの楽器親指ピアノをテーマとした「親指ピアノフェスティバル」を国内のアフリカ関係者と共同企画で行いました。また市内の楽器メーカーと共催で公募の出演者による「電子チェンバロの集い」を行い、市民参加の分野を開拓しました。講座「民族音楽紀行」では、シルクロードの音楽文化の深層を8回にわたってとりあげ、「楽器の中の聖と俗」ではアンデスの祭りをテーマに、博物館にふさわしい世界を巡る講座とな

りました。

所蔵楽器を演奏してのCDは朝日新聞や毎日新聞の推薦盤、レコード芸術誌やバンドジャーナル誌等の特選盤に次々と選ばれました。特に江戸時代のタイプの尺八を演奏したCDは学術的にも高い評価を得ました。

入館者数は昨今の社会情勢と年度末の地震災害の影響により79,621人となりましたが、移動博物館や講座、コンサートなど付帯事業の参加者を含めると、楽器博物館の利用者は約100,000人となりました。

### (ウ) クリエイト浜松（中部公民館及び文化コミュニティセンター）

浜松市の生涯学習の拠点施設として、様々な活動を展開しました。

クリエート浜松の若年層の利用者を増やすため、日中の利用に比べて夜間の利用が少ないことから、夜間に主に日中仕事についている方を対象とした事業「夜クリ（夜のクリエート）」を開設しました。毎月約5回開催し、約800人が参加しました。また22年度後半からは、小さいお子さんがいらっしゃる保護者の方を対象とした「昼クリ」も設け、こちらは300人弱の参加者をえました。この他、市内の文化団体、個人から企画を寄せてもらい、秀逸な企画には財団が共催するなど開催応援を行う「持ち込み企画大募集」では、障がい者および高齢者施設で美術活動をしている方々の絵画を展示し、約1,100人の観覧者を数えました。その他、現在活動中の同好会、サークルへの新規会員勧誘を行うため、22年度は「囲碁を愉しむ」と題した講座を設けました。囲碁の未経験者もしくは以前に少しだけ経験したことがある初心者を対象としたもので、3か月の講座を受けた参加者の約半数がクリエート浜松囲碁同好会の会員となりました。

### (エ) 浜松科学館

常設展示では、昨年3月に導入された小型展示案内端末「U4」の更なる利用を促進すべく、システムを活用したクイズラリー等館内イベントを実施し、来館者にもっと楽しく利用していただけるようアピールしてまいりました。

プラネタリウムでは、大人向けの「HAYABUSA～Back To The Earth～」、子ども向けの「ヤッターマン」両番組とも大好評で、職員制作による7つのオリジナル番組とあわせ、昨年度実績を1万人以上大きく上回る5万6千人近い市民の方にご鑑賞いただけました。また、アクトシティ連絡会による、冬の夜空のふたご座流星群観望会に協力し、地域の要望に応える

事業も展開しました。

夏の特別展「サイエンスホラスクール『怖（こわ）びっくり』を科学する」では、小学生の子どもたちを中心に人気が出ましたが、大人の来館者が伸びず、4万人の来場者に留まり、特別展のみの収支は大きくマイナスとなりました。メインターゲットは間違っていないものの、収支を考えるうえでは今後の課題となりました。

昨年6月に7年ぶりに地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」の偉業を紹介すべく実施いたしました、「おかえり『はやぶさ』帰還カプセル特別展示 in 浜松」では、3日間のみの開催でありましたが、約2万4千人のご来場をいただきました。多くの自治体が立候補していた中で、この時期に実施することが認められ、浜松市民に提供することができたのは、たいへん恵まれました。（入場待ちの長蛇の列は、一時アクトシティ展示イベントホール外周を3/4周しました。）

一方で前記事業を開催することにしたため、急遽日程変更することとなった冬季恒例事業「おや！なぜ？横丁」は、クリスマスにかかってしまったこともあり、出展企業や参加校が、減ってしまいました。科学のおもしろさ、ものづくりの楽しさを味わえるイベントとして、地域との連携のもとに成り立つこの事業を定着させてゆくために、次年度は協力機関を含めこの事業を大切に扱ってまいります。

その他、アウトリーチ活動である出張授業「ゴーゴーおもしろサイエンス」では、前年度より1校増やし市内21の小学校に出掛け、科学体験に対する意欲付けを行うとともに、来館の機会の少ない地域の児童に対して、浜松科学館を紹介する機会としました。

## **(オ) 浜松こども館**

平成22年度は、指定管理2年目を迎え、日常的なプログラムは、質を維持し、参加者の満足度を高めることを意識して実施すると同時に、新たな可能性も探りながら事業を行い、入場者数18万3千人、延べ623回開催した事業では、約5万6千人が参加いただきました。

浜松こども館が築きあげてきた取り組みや考え方をより多くの方に、わかりやすく発信し、集客につなげるために、こども館の日々の様子を伝えることを中心にしたホームページをリニューアルしました。併せて、携帯サイトも立ち上げ、子育て世代を中心に身近にこども館情報を得られるようにしました。

また、利用者のニーズを把握し、多様な視点でこども館の運営について検討していくため、利用者アンケートを実施するとともに、地域の方や有識者をメンバーに運営評価検討委員会

を立ち上げました。こういった取り組みの中から、子育て中の大人が元気になるための講座「Nobody's Perfect ～完璧な親なんていない～」や、幼児とその保護者を対象にした「遊びを通しての体づくり、体力づくり」という新たな実践も行いました。利用者アンケートからは、来館者の7割以上がリピーターであること、9割以上の方がこども館に満足していることが分析できました。

アウトリーチ活動では、「赤ちゃん大集合」を年8回、保育園、幼稚園、特別支援学校を対象にした「ねんどがドーン！」を年9回実施しました。

### **(カ) 浜松文芸館**

『より豊かな浜松市民の文芸文化を広げていく講座等事業』として、16種類の「文芸講座」、4本の「企画・収蔵展」、3本の「講演・朗読会」を開催しました。

各入門講座では、講座終了後文芸館で活動する新たな同好会が多数立ち上がり、市民の創作活動をより活発化できました。

春休みを中心として開催した「手づくり絵本とバルーンアート展」では、付帯事業として手づくり絵本講座とバルーン教室を開催、毎回大勢の親子連れが訪れました。また、「10歳からの少年・少女俳句入門」、「額縁講座」では子供たちの豊かな表現力と、大人とは違う歓声に新鮮さを覚えました。「朗読会」では寺山修司作品を楽器と共に表現し、文学を五感で感じる空間を創出しました。

『浜松地域の文化ネットワークとも連携した企画展事業』として開催した「寺野時間夢能庵展」では、北区引佐町に伝わる文化の紹介と共に浜松市民の地域交流の幅を広げました。また“文化の継承”という点においても興味深いものになりました。

また浜松ゆかりの作家らのエッセーや選句集などを収録した文庫本第3弾「風紋のアンソロジー3」を刊行しました。

### **(キ) 浜松市旧浜松銀行協会（木下恵介記念館を含む。）**

日本を代表する映画監督、木下恵介氏の業績を浜松市指定有形文化財である旧浜松銀行協会は、平成21年12月5日（木下恵介誕生日生誕97年）に一般市民への公開オープンが始まり、同時に、フォルテからの移転が決まっていた木下恵介記念館が建物内に再オープンしました。建物内には設計者である中村與資平の資料室も常設しました。

平成22年度は恒例となっているアートホールでの木下作品上映会を開催の他、出張上映会

として市内ディケアセンターでの上映会も行いました。また12月に亡くなった高峰秀子さんの追悼上映会として、高峰さんの主演作品「笛吹川」の特別上映会をクリエート浜松にて実施しました。

アートホール、ギャラリーを活用した事業として、浜松交響楽団35周年を記念した展示会「浜響展」を開催、あわせてサロンコンサートを実施し、好評を博しました。

また木下監督の全作品紹介のほか、幼少時から晩年までの写真、随筆等をまとめた文庫本「KEISUKE～木下恵介記念館～」を刊行しました。

### (ク) 浜松市天竜壬生ホール

北遠地域の文化振興と芸術普及を目的とし11本の主催事業を行い、約3,100人の参加がありました。

「市原悦子・朗読とお話の世界」では、地元の民話中心のプログラムで市民の皆様に楽しんでいただきました。

市民が参加できる事業としては「懐かしい楽器コンサート with 栗コーダーカルテット」で4団体41名が参加。「未来の音楽家コンサート」では13組30名が参加。「初めてのフラワーアレンジメント展示会」では10名が出展しました。

開館して8年が経過し、経年劣化した備品、設備の修理・修繕を積極的に行いました。高額な修繕箇所については市と協議を行い、舞台吊物昇降装置ギヤオイル及びVベルトは市の費用により取替工事をしました。そのほか、草刈・芝の手入れに努め、外回りの美観整備を行いました。

### (ケ) 浜松市浜北文化センター

浜北地域での文化振興の拠点を目指し、事業を開催いたしました。

開館当初からの継続事業である「第28回浜北寄席」を開催し好評を得たほか、子育て世代に人気の高い元NHKうたのおにいさん・おねえさんのいまいゆうぞう・はいだしょうこによる「ファンタジーコンサート」は2回公演が早々に完売し、多くの方にご来場いただきました。

昨年度から開催をはじめた赤ちゃん連れを対象にした無料のクラシックコンサート「ゆるやかコンサート」は季節に応じた曲目を選ぶなど、出演者の方々にご協力をいただきながら計4回実施したところ大変高い評価を来場の方々よりいただきました。

このほか初めての試みとして、子どもたちが保護者の協力を得ながら等身大のロボットを

製作し、パレードを行った創作ワークショップを開催しました。

開館から29年が経ち、修繕等が必要な施設、設備が多数あるため、浜松市と協議の中で整備を進めるとともに、浜松市公共予約システム「まつぼっくり」を活用しながら、利用者の快適な利用環境の確保に努めました。

### **(コ) 浜松市森岡の家**

同心遠慮講の歴史など情報提供等を行うとともに、建物等の修繕を始め、樹木の適切な育成、管理を行い、環境整備に努めました。

施設が耐震基準を満たしていないため、21年度より見学のみ受け入れています。

### **ク 埋蔵文化財の発掘及び調査**

8 遺跡の発掘調査や整理作業、報告書の作成を行いました。

## (2) 会議に関する事項

### ア 理事会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第14号	22. 6. 23	平成21年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告及び会計報告について
第15号	22. 6. 23	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第16号	22. 6. 23	公益法人改革に伴う最初の評議員選定委員の選任について
第17号	22. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団役員の報酬等に関する規程の一部改正について
第18号	22. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第19号	22. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第1号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団文書取扱規程の一部改正について
第2号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団職員退職手当支給規程の一部改正について
第3号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第4号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団浜松科学館利用料金規程の一部改正について
第5号	23. 3. 23	平成22年度財団法人浜松市文化振興財団補正予算について
第6号	23. 3. 23	平成23年度財団法人浜松市文化振興財団事業計画について
第7号	23. 3. 23	平成23年度財団法人浜松市文化振興財団予算について
第8号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第9号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団副理事長・常務理事の互選について

### イ 評議員会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第3号	22. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第4号	22. 12. 22	公益財団移行後の最初の理事の選任について
第1号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第2号	23. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団監事の選任について

### (3) 役員に関する事項

#### ア 役員（平成23年3月31日現在）

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	伊藤修二	評議員	石村和清
副理事長	丹羽稔夫	評議員	中山正邦
常務理事	齋藤慎五	評議員	田代 剛
理事	御室健一郎	評議員	山崎貴裕
理事	梅村 充	評議員	澤野幸廣
理事	河合弘隆	評議員	河嶋英典
理事	山内啓司	評議員	大石好孝
理事	竹内善一郎	評議員	武田喜一郎
理事	星野悦雄	評議員	鈴木理久
理事	畑すみ子	評議員	吉岡克己
理事	杉田 豊	評議員	小畠逞壯
理事	高木伸三	評議員	高松良幸
理事	飯田彰一	評議員	西田かほる
監事	大石清美	評議員	石田美枝子
監事	池浦捷行		

## イ 役員の異動

### (ア) 就任

役職名	氏名	就任日	役職名	氏名	就任日
理事	高木伸三	22. 12. 22	評議員	武田喜一郎	22. 6. 23
監事	池浦捷行	22. 6. 23	評議員	小島逞壯	22. 6. 23

### (イ) 辞任 (任期満了も含む)

役職名	氏名	辞任日	役職名	氏名	辞任日
理事	須藤京子	22. 6. 23	評議員	池町克徳	22. 6. 23
理事	丹羽稔夫	23. 3. 31	評議員	横原 幸	23. 6. 23
理事	齋藤慎五	23. 3. 31	評議員	石村和清	23. 3. 31
理事	御室健一郎	23. 3. 31	評議員	中山正邦	23. 3. 31
理事	梅村 充	23. 3. 31	評議員	田代 剛	23. 3. 31
理事	河合弘隆	23. 3. 31	評議員	山崎貴裕	23. 3. 31
理事	山内啓司	23. 3. 31	評議員	澤野幸廣	23. 3. 31
理事	竹内善一郎	23. 3. 31	評議員	河嶋英典	23. 3. 31
理事	星野悦雄	23. 3. 31	評議員	大石好孝	23. 3. 31
理事	畑すみ子	23. 3. 31	評議員	武田喜一郎	23. 3. 31
理事	杉田 豊	23. 3. 31	評議員	鈴木理久	23. 3. 31
理事	高木伸三	23. 3. 31	評議員	吉岡克己	23. 3. 31
理事	飯田彰一	23. 3. 31	評議員	小島逞壯	23. 3. 31
監事	鈴木不二	22. 6. 23	評議員	高松良幸	23. 3. 31
監事	池浦捷行	23. 3. 31	評議員	西田かほる	23. 3. 31
監事	大石清美	23. 3. 31	評議員	石田美枝子	23. 3. 31

#### (4) 職員に関する事項

区 分	人数( )は兼務		備 考
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在	
事務局長	1	1	事務員1
事務局次長	1	1	事務員1
総務課長	1	1	事務員1
主幹	3	4	事務員3
主任	1	2	事務員1
係員	3	3	嘱託員3
事業課長	1	1	事務員1
主幹	3	4	事務員3
主任	3	3	事務員3
係員	12	14	事務員3 嘱託員9
販売促進課長	(1)	—	事務局長兼務
主幹	1	—	事務員1
主任	1	—	事務員1
係員	1	—	嘱託員1
アクトシティ浜松管理課長	1	(1)	事務員1
主幹	2	2	事務員2
主任	2	1	事務員2
係員	8	9	事務員4 嘱託員4
楽器博物館 館長	1	1	事務員1
主幹	1	1	事務員1
係員	7	8	事務員1 嘱託員6
クリエート浜松 館長	1	1	事務員1
主幹	0	0	
主任	1	1	事務員1
係員	6	7	事務員1 嘱託員5
科学館 館長	1	1	嘱託員1
主幹	3	3	事務員3(うち浜松市職員2)
主任	1	1	事務員1
係員	17	17	嘱託員17
こども館 館長	1	1	嘱託員1

主幹	0	0	
主任	3	1	事務員3
係員	13	14	事務員1 嘱託員12
文芸館 館長	(1)	(1)	事務局次長兼務
係員	2	2	嘱託員2
木下恵介記念館 館長	(1)	(1)	事務局次長兼務
係員	2	2	嘱託員2
天竜壬生ホール 館長	(1)	(1)	事務局長兼務
係員	1	1	嘱託員1
浜北文化センター、 兼森岡の家 館長	1	1	嘱託員1
係員	3	3	事務員1 嘱託員2
計	110	112	
会計責任者	(1)	(1)	事務局長
出納員	(12)	(11)	課長及びアクトシティを除く館長

※平成22年度は「販売促進課」を新設。